

■ 戦略経営研究会 128th ミーティング 議事録

日 時：2019年6月1日(土) 14:00-17:00

場 所：東京/京橋「サルビア会議室」

テーマ：三豊で、泊まって、食べて、楽しんで ～地域資源を活かして観光で仕事をつくる～

発表者：真鍋貴臣さん(株式会社Draworth 代表取締役)

参加者：13人(財務コンサルタント、大学教員、ビジネス研修講師、会社経営、会社員、NPO法人理事長、税理士、行政書士、司法書士等)

目次：

1. 沿革
2. 三豊市の課題と潮流
3. Optimal Solution (最適な解決策)
4. Draworth
5. 合同会社フィネストラ
6. 合同会社荘内半島オリーブ農園
7. まとめ

発表：

1. 沿革

地元の銀行に10年間務めていました。システム開発を担当していました。区切りがついたところで、家業であるガソリンスタンドを継ぐことにしました。こちらの立直しも済んだところで、市の観光基本計画の実行団体(任意団体)の会長に就任しました。そこで、観光による地域づくりの仲間ができました。この活動に本腰を入れるために、法人化を行い、無双地図(現Draworth)を立上げました。現在、Draworth、合同会社フィネストラ、合同会社荘内半島オリーブ農園、香洋石油店などの経営を行っています。

2. 三豊市の課題と潮流

三豊市は、香川県西部にあります。瀬戸内海に突きだす荘内半島があります。人口は6万人です。瀬戸内海と桜を眺めることのできる紫雲出山は、桜の時期、2万人が訪れます。瀬戸内海のウユニ塩湖と呼ばれる父母ヶ浜はゴールデンウィークだけで1万人が訪れました。オーバーツーリズムとなりつつあります。地域の課題としては、①労働人口の減少(人口流出の増加、就業人口の減少)が挙げられます。この10年で人口が2/3になりました。三豊市に短大はありますが、大学はありません。高校卒業とともに市外に転出することが多いです。②社会的遊休ストックの増加(空き家、空き店舗の増加)も挙げられます。③高齢人口の増加(地域コミュニティの維持継続が困難。道路補修などできなくなる)も挙げられます。一方、三豊市への移

住者が増加しています。このため、子育て世代が増加しています。メインストリームにはならないですが空き家ビジネスがしやすくなっています。空き家バンクの慰労も活発です。人気は庄内半島や海の見える地域です。それ以外だと値段が下がります。田んぼ付きの家屋でも 100 万円ぐらいです。コミュニティビジネスの可能性を感じています。入り込む余地があるのではないかと考えています。この地で豊かに生きていくにはどうすれば良いかが ISSUE です。大きな社会に向けてではなく、半径 500 メートルにいる人の生活で考えています。結婚して、子どもができて、育って、大人になると都会に出ていきます。しかしその後、地元に戻る環境をつくりたいです。

### 3. Optimal Solution (最適な解決策)

Optimal Solution (最適な解決策) は多様な暮らしを方を下支えする小商いの機会をつくることです。65 歳までに 3000 万円貯めるより、80 歳まで働ける体力、そして仕事が大切ではないでしょうか。Draworth メンバーで移住者の横山さんは農作業の手伝いなどで収益を上げて豊かに生活しています。そういう小商いをつくるのが使命です。では、どうつくるのでしょうか。サービスは、社会的に比較されると、値段で選択されてしまいます。差別化、お客さんから選んでもらう理由が必要です。そのためには、成長分野へマイクロスタートすることが大切です。また、その地域にあるものを強みとすることが差別化につながります。コモディティは比較されてしまいます。そうではなく、値段で決められないようにします。バックボーンとなる価値は「時間」と考えています。これは代替の効かない資産であり、ユニーク (本物) な資産です。みんなが素晴らしいと思うものを探し、抜き出し、届けたいです。価値は既にそこにあります。気付いていないだけです。価値を認めてくれる人に伝え、お金をいただきます。そのための手段としての観光です。

### 4. Draworth

Draworth の商号変更の前は「無双地図」でした。設立から商号変更までの 2 年間の反省点は法人であることにこだわり過ぎたことです。本来は、目の前にいる人たちを活かすことだったのにです。法人化は手段であり、目的ではありません。そこで、Draworth に商号変更し、事業もゆるく変えていきます。事業内容は、①ガイド付きツアーの造成・販売・人材育成、②食サービス (地域食アテンダント)、③観光地域づくりコンサルティングです。リピートにつなげることを念頭においています。具体的には、出張シェフにより絶景を観ながら食事ができます。とはいえ、プロのシェフでは、夜は営業時間がかぶるので NG です。そこで、地域のセミプロに依頼しています。飲食店の経験はあるが、現在は仕事にはしていないという方です。

Draworth とは新しい価値を描くという意味です。ドロワーには引き出しという意味もあります。すなわち、いろいろな人からそれぞれの強みを引き出したいです。Draworth の目指したい姿は、誰かが一步を踏み出せる場所、居心地の良い社交場 (オフラインサロン) です。アウトプットは相互信頼に基づく仲の良いフラットな関係性です。運営判断指標は、1 年に 1 回、メ

メンバーが集まり美味しくお酒をいただけるかどうかです。機能は、①食、ガイド、スペースの運営を通じてのサポート、②場の提供 (Arts & Crafts)、③コネクションの提供です。主なメンバー (Draworth の中の人) は、私 (真鍋さん)、横山さん、森さんです。それぞれのリソースを活かして、いろいろな人を巻き込んで、広がっています。サポーターは、ガイド、アテンダント、カフェ運営の実施・開発・改善に参加します。また、他のグループと協力・協働体制を組んでいます。したがって、ドロワーとは、①Draworth の中の人、②サポートをしてくれる人、③協力・協働してくれる人となります。収益は、ゲストハウスの宿泊費で稼いでいます。なお、利用者の4割が外国人です。

地域食アテンダントは、燧や Latoile、kanran、オリーブ農園などで、地域の食材や食文化に根差した料理の提供などを行っています。アテンダントは移住者が行っています。また、三豊市にはお茶の産地があります。品質は良いのですが、ブランディングできていません。他産地のお茶にブレンドされてしまいます。そこで、お茶に特化したメニューをつくりました。地域食アテンダントでは、セミプロからストーリーを語ってもらいます。お話し合いをしながら召し上がっていただきます。ガイドツアーには、星空ツアー、発酵食ツアー、島巡りツアーなどがあります。ゲストハウスの「燧」にてここでしか提供できないものとして、星空ツアーを考案しました。夜、周辺の明かりが少ないからです。また、香川県西部には発酵食文化があります。お味噌、醤油、お酢の製造者も多いです。このことから発酵食ツアーを考案しました。それぞれ小商いをしながら、コミットしてもらっています。

#### 5. 合同会社フィネストラ

合同会社フィネストラはゲストハウス4棟を運営しています。窓から唯一無二の風景を眺めることができます。「燧」は部屋から海を眺めることができます。時間を忘れる場所というコンセプトです。AirbnbのPR動画にも紹介されました。「トワール」は茶香と共に過ごす時間というコンセプトです。隠れた名産であるお茶を楽しめます。「Kanran」は瀬戸内で過ごしヒュッゲ(デンマーク人が大切にしている時間の過ごし方や心の持ち方を表す言葉)な時間というコンセプトです。荘内半島オリーブ農園の中に造りました。

#### 6. 合同会社荘内半島オリーブ農園

合同会社荘内半島オリーブ農園は絶景農園を運営しています。開墾から始めて、海が見えるように造成しました。「千年生きるオリーブのように、地域に長く愛される場所と仕事を作りたい」というコンセプトです。オリーブの加工・販売を行っています。また、会員向けの食事会のサポート、地域食アテンダントと連携しランチ会の開催、オリーブ園を活用したガイドツアーも提供しています。

#### 7. まとめ

Draworthはプレイヤーやアライアンスのプラットフォームです。ドロワーの商機とやりが

い（やりがいがあって、単価の高い仕事）の創出を行っています。地域で豊かに暮らしていく  
土壌の形成につなげていきます。

以上